

※「評価規準（評価方法）」における観点

関：数学への関心・意欲・態度

見：数学的な見方や考え方

表：数学的な表現・処理

知：数量、図形などについての知識・理解

次	時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	1	○方程式とその解の意味を理解する。	① 具体的な例を通して、方程式の意味及びその解の意味に、関心をもたせる。 ② それぞれの場面において、自分の考えを表現させる。	関：方程式とその解の意味に関心をもち、そのしくみのよさを認める。（様相チェック） 知：方程式、解く用語やその意味を言っている。（発言チェック）
2	5	○等式の性質と方程式の解き方を理解する。 (1) 等式の性質を理解する。 (2) 1次方程式の解き方を理解する。 (3) 1次方程式の計算をする。 ・簡単な1次方程式 ・かっこのある1次方程式 ・係数に小数や1次方程式	① 上皿てんびんを用いた操作を、活動を取り入れる。イメ ジをもつて把握させる。程 ① 移項の考えを使っで底さ せる。基本的な方程式を解く手 ③ 本をまどめさせる。さんの他 ① ② 計たけたか、て、考 の算生徒の考えと比べ、て、考 のよりよる方法に ③ ● α ノートに授業のま め部分をもとめさせる。	関：等式にはどのような性質があるか進んで調べるようにする。（様相チェック） 見：つりあっている天秤の関係を通じ、等式の性質を見いだす。（ノート分析） 知：等式の性質を理解している。（発言チェック） 関：等式の性質を活用し、1元1次方程式を手際よく解こうとする。（様相チェック） 見：等式の性質を適用することによって、移項や方程式の解き方を手際よく見いだす。（ノート分析） 表：1元1次方程式の解法を一般的に手際よく解くことができる。（小テスト） 知：1元1次方程式の意味や、1元1次方程式の解き方を理解している。（発言チェック）
3	5	○1次方程式を利用する。 (1) 方程式を基本として解く。 (2) 「過不足算」の問題を1元1次方程式を使って解く。 (3) 「旅人算」の問題を1次方程式を使って解く。	① ③ 数量の間の関係を方程式で表現する。式の復習や他表のよさ、考察をXにす ① ② せ、て、考をなつた方程式がで ① ② 何異に易が生じるか、と ③ ● α ノートに授業のま め部分をもとめさせる。	関：図や表を用いるなどして、身近な事象から1元1次方程式を解く。1元1次方程式を解く方法が適切であるか、解かふり返って考察する。（小テスト） 見：具体的な事象の中の数値の関係をとりえ、1元1次方程式をつくり、その解を求めるとともに、解や解決の方法が適切であったかどうかふり返って考察することができる。（数学的な見方・考え方） 表：1元1次方程式で表すことができる問題の数量関係を1元1次方程式で表すことができる。（小テスト） 知：具体的な事象の中の数値の関係をとりえ、1元1次方程式をつくり、その解を求めるとともに、解や解決の方法が適切であったかどうかふり返って考察することができる。（数学的な見方・考え方）
4	1	○比の性質を活用する。	② 日常的な場面に関する文章題を、比の性質を使って考えさせる。	見：具体的な事象の中の数値の関係をとりえ、1元1次方程式をつくり、その解を求めるとともに、解や解決の方法が適切であったかどうかふり返って考察することができる。（数学的な見方・考え方） 表：1元1次方程式で表すことができる問題の数量関係を1元1次方程式で表すことができる。（小テスト） 知：具体的な事象の中の数値の関係をとりえ、1元1次方程式をつくり、その解を求めるとともに、解や解決の方法が適切であったかどうかふり返って考察することができる。（数学的な見方・考え方）
4	2	○練習問題を解く。	③ これまでに学習した数をもとめ、数に関する理解を促す。 ③ ● α ノートに授業のま め部分をもとめさせる。	

5 本時 平成22年9月 日（曜日）第 校時 計画14時間中の8 第1学年教室にて

(1) 本時の主眼

○方程式を使って、具体的な問題を解決する手順を理解している。

(数量、図形などについての知識・理解)

○具体的な事象の中の数値の関係をとりえ、1元1次方程式をつくり、その解を求めるとともに、解や解決の方法が適切であったかどうかふり返って考察することができる。（数学的な見方・考え方）

(2) 本時の指導観

前時までに生徒は、1元1次方程式の解法を一般的な手順としてまとめ、能率よく解くことができる。また、方程式を使って文章問題を解く手順を理解している。この本時は、「過不足算」の問題を1元1次方程式を使って解くことにより、1つを量問を2通りの式で表す方法を理解はせ、等式を用いて幅を広げたい。そのために、同じ「不足」「余る」の言葉が入っているが、符号が違ふ問題と、自作の皿てんびんを準備し、生徒が混乱しないように注意しながら、丁寧に指導したい。

(3) 準備

教師・・・問題を解く手順のカード，拡大した問題文，上皿てんびん，家庭学習プリント
 生徒・・・教科書，ノート，ワーク，ファイル

6 過程

学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準（方法）	形態	配時
1 前時の学習内容を振り返る。	○全員で問題を音読させる。 ①わかっていることを棒線表で求めるところを波線で表す。 ①③この確認まで学習してきた文章問題から立式する手順を確認する。 ●家庭で立式する手順をαノートにまとめさせておく。		全体	3
2 問題を把握し，本時のめあてをつかむ。	○全員で問題を音読させる。 ①前時の問題とどこが違うか確認する。		全体	2
(例題1) お菓子を何人かの子供に分けるのに，1人に5個ずつ分けると12個余り，7個ずつ分けると4個足りません。子供の数とお菓子の数を求めなさい。				
めあて：1つの数量を2通りの式で表し，方程式をつくろう。				
3 具体的な数量と図から，立式のこつをつかむ。	①具体的な数量と図と上皿てんびんを用いて，1つずつの数量を2通りの式で表す。		全体	3
4 例題1を立式する手順を確認しながら解く。	①わかっていることを棒線表で求め促す。 ①②何をXにするかによって立式が異なるが，立式がよければよい。 ①②異なる立式の場合，立式がよければよい。 ①②異なる立式の場合，立式がよければよい。	知：方程式を用いて，具体的な問題を解く手順を理解する。 (発言チェック)	全体	10
5 問1を解く。			個	15
(問1) 画用紙を何人かの生徒に配るのに，1人に2枚ずつ配ると10枚余り，3枚ずつ配ると5枚足りません。生徒の人数と画用紙の枚数を求めなさい。				
	○全員で問題を音読させる。 ②例題1の解き方をヒントに文を解かせながら問題を考えさせる。 ○机を巡って生徒にS.T.の役割を分担させ，生徒の考えを聞き取り，必要に応じて支援する。 ○複数の名に解答を発表させる。	見：具体的な事象の数量関係と方程式の係数を1次式で表し，それを求める方法を振り返り，適切な方法がどうかを判断する。 (ノート分析)		
6 補充問題を解く。			個	8
(補充問題) 記念品を買うため，生徒から1人420円ずつ集めると300円不足して，440円ずつ集めると400円余ります。生徒の人数と記念品の代金を求めなさい。				
7 本時のまとめをし，自己評価をする。	○全員で問題を音読させる。 ①②不足を言葉で表し，上皿てんびんを利用して立式する。 ①問題文への棒線表を完成させる。 ○解答を1人1人発表させる。 ○p.51の1,3を解くように促す。 ③本時のまとめをし，自己評価をする。 ●家庭学習プリントを配布する。 ●αノートに復習をするよう指示する。		全体	4
(左辺) = (右辺) $\frac{\quad}{\Delta}$				

